

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774001362		
法人名	有限会社 豊中オアシス		
事業所名	グループホーム桜塚オアシス		
所在地	豊中市南桜塚4丁目11-4（2階）		
自己評価作成日	平成26年5月1日	評価結果市町村受理日	平成26年7月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階
訪問調査日	平成26年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康管理には力を入れています。気付きの力を大切に職員が気になる事があれば、報告が入り確認し、対応していく形をとっています。普段からのかかわりがとても大切な事だと感じます。また個別ケアやレクにも対応しています。残存能力を維持出来るよう可能な事に挑戦してもらったり、職員と一緒にいたりして達成感を感じてもらったりしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は豊中市に2ヶ所、西宮市に1ヶ所のグループホームを運営し、同じ悩みを抱えている大阪府内の法人4社が集まり、平成17年にエコ介護事業協同組合を立ち上げ、備品の共同購入や運営上の合理化を図っている。事業所は昨年末から極端な職員の移動が発生し、今年になって新管理者が就任し、まだ十分とは言えないが漸く落ち着きを取り戻しつつある。新管理者は風通しの良い職場に努め、事業所が抱えるひとつの課題をユニットリーダーや一新した職員と話し合い、利用者の視点に立ってサービスの向上に向け日々取り組んでいる。利用者の中で昼食時のちらし寿司に振りかける卵焼きを調理した方の達成感に溢れた笑顔や壁に飾られている利用者の手作り作品等には1人ひとりの個別ケアを大切に支援している姿が見てとれる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るく楽しい家庭的な環境」「安心、快適、尊厳のある生活」「利用者様に応じた自立支援」「家族様と共に地域との関わりを大切にする」を理念とし職員全員で日々取り組んでいます。	法人及びエコ介護事業協同組合のグループ会社全ての事業所が共同の理念として掲げ、掲示し、日々職員は共有し実践につなげている。	グループ会社の理念だけでなく、新管理者の下で全職員が参加した地域密着型サービスの事業所独自の理念を作成し、その共有と実践をこの機会に実行する事を期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事を介護相談員さんや民生委員の方から教えて頂いているので、タイミングが合えば参加していく予定。また過去には夏祭りなどをして地域の方を招待した事もあるようなので可能な限り挑戦してみたいと思います。	運営推進会議のメンバーである校区福祉委員会3人(民生委員)より地域の行事情報を得て、老人会や夏祭り等に参加している。地域の自治会組織の有無も含め再調査し、自治会加入や地域の防災訓練等への参加を検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これから再度の挑戦かと思いますので、地域のイベントや行事に参加していき、何が出来るかから検討して皆で作っていかれたらと思います。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月の1回のペースで開催しており、桜塚は参加者が多いので驚きましたが、その分意見や発言も多々あり、開催して楽しいと感じたのは初めてです。これからも意味のある会議にしていきたいと考えます。	家族・校区福祉委員会3人・介護相談員2人・地域包括支援センター・市高齢者支援課に参加を呼びかけ、2ヶ月に1回開催している。行事報告だけでなく管理者は事業所の現状を説明し意見を聞く様に努め運営に活かしている、。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今は毎月モニタリングで福祉指導監査室の方が来て頂き毎月の様子や研修など改善計画に添ったスケジュールの確認をいただいている。今後も研修や意識の改善には努めていきたいと思います。	昨年末、行政の指摘を受け、毎月市職員が来訪され評価や指導を得ている。研修の実施報告や改善計画を提出し、市と協働してサービスの向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	門扉のロック方法は変更し、解錠しやすい物になっている。玄関扉は基本的には鍵は夜間のみなので好きな時に庭に出られる様に見守りしながら自由な環境を保っています。	原則身体拘束を行わない事を明示している。身体拘束排除のマニュアルを整備し、研修会を実施している。日中玄関は施錠せず、門扉は解除しやすい物に変更し、見守りを大切に支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、虐待はありませんが、過去の出来事を見本に同じ事が再度起こらない様に職員のストレスや、疲労感、孤独感、など蓄積しないようシフトの配慮などおこなっています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人をされている司法書士の方が現在は施設に定期的に訪問されているので、何かあれば相談して下さいと言っている。新規の後見人が必要な時等も相談させていただけるようになっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の都合に配慮し、優先して日時を設定し十分に納得の上で契約して頂ける様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、何かあれば即座に会社にも報告していく段取りになっています。	家族との面談を通じ、管理者は出来るだけ意見や要望を聞くように努めている。得られた意見は事業所で出来る事と出来ない事を家族に説明し理解に努めている。	家族に意見があることを理解し、言い易い環境を作り、出された苦情等は苦情処理簿に記入し、事業所の財産につなげるように期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2カ月に1度のペースで管理者会議を開催しており、意見、要望、相談など話し合う機会を設けております。	職員はユニットミーティングで意見が言える環境に現在はなっており、利用者へのケアサービス向上につなげている。職員は新管理者のリーダーシップを信じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成にも先に希望を記入してもらい、負担がかからないよう配慮し、スキルアップについても回覧し希望があれば稟議をあげたり、給料についても、以前より手当が色々付くスタイルになっておりますし、有休なども活用出来るようになっているかと思えます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修であったり、施設内研修の充実や、また今後はどんな研修を受けたいかなど聞き取りなどもおこなって行きたい。実情にあった研修も取り入れたいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列会社のGHが近隣に2つあるので、他の施設の見学や可能であれば合同での研修会や意見交換の場を交えてそれぞれの質の向上に努めていきたいと思えます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やサービスの利用時の様子を見させて頂き、本人様の生活歴、趣味、生き甲斐等アセスメントし内容を十分理解し、共同生活が安心、安全に過ごせるように、努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約、入居に至るまで、見学や相談等をさせて頂き、不安や要望について家族様の意見を確認している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネ、相談員との情報交換を密にとり家族様、本人様を含め今後の生活に対し、話し合う時間をもつようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	情報を共有し本人様を理解できるアセスメントは職員も参加し個別ケアが充実できるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の来訪時間に制限はないので、その時にもお時間を頂いて連絡をしたり、2カ月に1度 運営推進会議の報告書を今後は郵送していくので、その時に合わせて桜塚だよりを作成したり、時には文章で様子など記載したものを送ったりして疎遠にならないよう努めていきたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の判断があつて友人や知人の受け入れを行うようにしています。誕生日などには本人様の希望を伺い職員と1対1で外食に出かけたり、特別な日として使えるようにしていきたいと思います。	家族からの通報や了解を得て、今まで住んでいた近隣の知人等が来訪している。実家への帰宅や馴染みの美容室利用に家族の協力で継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性に考慮したテーブル席の振り分けを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族様がお困りの時などがあれば気軽に相談できるようにお話ししている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者や周囲の職員の意見を聞き、本人様も交えて意向や要望を認識し、施設では対応しきれない事もあるが、家族と相談し出来る限り希望に添うように努めていきたい。	利用時にフェースシートで得られた過去の生活歴等を職員は共有している。今日何をしたいか、何を食べたいか等、本人本位の希望に沿った支援が出来るように支援している。家族からの繰り返しの情報も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様家族様 その他の施設の方より生活歴を収集し、居室には馴染みの家具や写真など思い思いに置いて頂き生活環境の変化を少なくしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートの共有や排泄表などチェック表にて本人の情報を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様家族様の意向を踏まえ職員からの情報を共有しその人らしい介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、チームでカンファレンスを開催し、医師や家族と相談しながら介護計画作成につなげている。見直しは6ヶ月に1回実施しているが急変時や入退院時には即対応するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な変化や援助の工夫など、介護記録には勿論の事 申し送りノートにも記入し、情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のストレスの解消法として、外出、散歩、買い物、外食等ニーズに合わせた支援を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問介護相談員を毎月1回、ボランティアの受け入れ等相談事や趣味を活かせるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様の意向に添い係りつけの病院の継続、協力医療機関を受けて頂く場合は、本人様、家族様の同意を得て週1回の内科往診を受けて頂いています。	現在13名の内10名が家族の同意を得て協力医より毎週往診を受けている。歯科医も週一回の往診している。従来のかかりつけ医や専門科は家族の協力を得て行い、出来ない場合は施設も支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関から2週間に1回、訪問看護師が訪問し、健康、置き薬の管理を行っている。また相談にも乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中には可能な限りでの面会に行き、本人様の状態の把握、または家族様からも情報を頂ける様依頼しています。病院の看護師や医療連携室の担当者とも話す機会を持ち早期退院にできるように配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GHでのメリットやデメリットを正確に伝え、家族様には様子の報告を行い、可能な限りでの希望に添えるように、都度確認をするように配慮していきます	入所時に重度化対応指針書に基き、出来る事・出来ない事を十分に説明し同意を得ている。看取りに関しては24時間医療連携の課題もあり、事業所としてしない方針であるが出来る範囲で家族の希望を聞くように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	再度見直しを今後していきたいと考えます。急変事、応急処置、救急要請、緊急時の対応など連絡簿からの見直し予定と今後の研修や勉強会にも入れていきたいと思います		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実地し、緊急時の避難経路の確認や整備を行っている	年2回避難訓練を隣にあるグループ会社と協働し行っている。運営推進会議等を通じて地域住民の参加を呼び掛けているが参加に至っていない。	社会福祉施設に於ける地震対応マニュアル(大阪府25年)や日本認知症協会の調査研究報告を参考にし、夜間時対策のより実践的な訓練とその頻度を増やす事を望みたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を把握することに努め個々の人格に配慮、プライバシーを尊重した声掛け・コミュニケーションを行っている。何かあった事については申し送りノートに記載し全職員へ内容の把握を理解したかの確認の為、署名してもらい、保管している	入居者を人生の先輩と考え、人格の尊厳とプライドを損なわない様に、声かけや対応を十分意識し、支援に努めている。又プライバシーの保護の関する書類は、鍵のかかる保管庫に厳重に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人様より意向、思い等を聞き出し、周囲関係職員は思いが叶うように可能な限り支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせ、これまでの生活環境や介護計画に添ったその人らしい生活ができるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回理容師・美容師の訪問がありカットや顔そりなど本人様の希望を伝えて行っている。髪の毛の染めなどは家族様の意向も伺い職員で対応も行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付けや後片付け、配膳、又はおやつと一緒に作って頂いたりと出来る範囲で参加して頂き楽しみを持って頂けるよう支援しています	食材はグループ会社より2日毎にケータリングにて配送され、調理担当者が対応している。食事は職員と共にしていないが、職員が付き添い支援している。又イベント食が月1回あり、誕生日には希望により外食もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、個々の嗜好を把握し個別対応が出来るように工夫しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底し各週火曜の訪問歯科医による口腔衛生管理を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し能力を活かし、その都度不快感がないように、速やかに対応するよう心掛けています	個々の排泄パターンを把握し、時間の少し前にそれとなく声をかけをトイレへと誘導している。布パンツの方は2名いるが尊厳に配慮しながら出来るだけ自立で排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品等を提供しながらコントロールし、困難な方については、内科医や看護師に相談しながら服薬にて調整している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めて行っているが、利用者様の希望にも添うよう配慮はしている(温度・順番・一人の空間)など基本的には週2回の入浴になっています	入浴は週2回が基本であるが、利用者の要望により柔軟に対応している。入浴の嫌いな方には、時間を変え・人を変え・順番を変え、拒否理由は感情が落ち着いた時に確認している。人により入浴剤や足浴・シャワー浴・清拭等の支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度に日中に運動を取り入れ、レクリエーションで歌を唄ったり、ビデオを見たり、散歩に出たり、安心して生活し、リラックスして眠れるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内科の往診時の薬の変更等については職員にもわかるように申し送りノートに張り出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物、買い物、音楽、手芸、飾り付けなど利用者様にあった役割を・楽しみを職員と共に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事にも参加したり、買い物や外出の機会を増やしていきたいと思います。また誕生日には職員とマンツーマンで外食を希望されれば一緒に食べに行く事もしていきたいと思います	日常は気候や本人の体調に合わせて近くの神社・公園等に出かけている。地域の夏祭りや老人会及び小学校の運動会に行き楽しんでいる。職員数はまだ十分でないが外気に当たり肌で季節感を感じる外出支援を大切にしている。。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	いままで使っていた財布を預り、外出時には施設現金を入れてあるが、本人様には何も言わずに自分の財布から買い物をしてもらっているという体験にも取り組んでいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のについては職員が事前に家族様に連絡を取り、その後職員がサポートして電話や手紙のやり取りを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外観はとても古くなっているのですが、実際の中は清潔感のあるもので安心して生活出来るように心がけています	木造造り、築後40年を経過しているが、壁の張り替え等により清潔感が出ている。壁には入居者の習字・イベント時の写真・季節感のある貼り絵等が飾られ明るい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での時間の過ごし方が多いと思うので相性に考慮したテーブル席にしたり廊下にはソファを置いてくつろげる場所を提供したり、洗濯場のスペースも有効に使用している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家財道具を持ち込んでいても居られるので、家族様が来訪された時にもゆっくりとくつろいで頂ける空間を提供している。居室は個々の個性がでている。	各居室は居心地よく過ごせる様に、家より使い慣れたタンス・テレビ・家族の写真・仏壇等が持ち込まれ、家庭の延長線の雰囲気が漂っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置など出来る限り安全に移動が可能になるよう配慮しています		